

ふるさとのみなさんへ 東都高原富士見会だより



今井 豊三
さいたま市在住
(落合出身)

終の栖

昭和三十一年三月上り列車に夢乗せて富士見の駅を後に上京し就職、三十八年結婚を機に大宮市大和田町に住まいを構えて以来六十一年余が過ぎました。

平成十五年浦和、大宮、蕨各市が合併、平成十七年に岩槻市が加入十区からなる政令指定都市さいたま市が誕生、現在は約百三十万都市へと発展しました。私の住む区は従来の大宮市大和田町から見沼区大和田町に代わりました。見沼区の大和田町一、二丁目の自治会加入世帯で人口一万五千七百余人と富士見町の人口に匹敵し市内一のマンモス自治会ですが、いずこも同じ少子高齢化は変わりありません。

在はその姿を見る影も少なく農家はわずかに点在する住宅地域に変わりました。
この地域は丘陵地帯で災害も少なく環境の良い町です。付近には大宮公園、盆栽村、鉄道博物館、氷川神社、各運動施設、太田道灌の寿能城跡、市民の森、グリーンセンター、一寸足を延ばせば埼玉副都心と数多くの名所旧跡があり、散歩には事欠かない地域ですが、全ての勤めを辞めて十八年、毎日が日曜日で留守番とテレビ三昧、健康のために散歩でもと思っても意志が弱いのでなかなか実行に移せません。

住めば都と言いますがこの地に住まいを構え半世紀余、人生の宝は出会い、この地に来て多くの人々と出会い暖かい人情に接しやうとこの歳になつてこの地と、地域の皆さんに仲間入りが出来た気がします。

ふるさとから約一八〇キロ、私にとってこの地が終の栖となつてしまいました。毎日を、ゆっくり、のんびり暮らして行ければと思っています。

まちの「話題」や「イベント」をご紹介します

News Fujimi

『謎の国、諏訪の国』で諏訪エリアの観光をPR!

1月23日(月)吉本興業 東京本部において、諏訪エリア観光ブランド「諏訪の国」の平成29年度観光キャンペーン発表会がおこなわれました。

平成27年から諏訪エリアの観光特使を務めるオリエンタルラジオの藤森慎吾さんも登場し、新しい諏訪エリアのキャンペーンをお披露目しました。

今回、藤森さんは『謎の国、諏訪の国』を語る「ストーリーテラー（語り部）」に扮し、諏訪にある「謎」を解き明かしていくというコンセプトで諏訪エリアの神秘性や地域性を発信していきます。

藤森さんが紹介する「謎」の中には、「御鹿射池（みしかいけ）」や「縄文のビーナス」、「岡谷シルク」などのコンテンツが盛り込まれており、観光資源の豊かな諏訪エリアを「諏訪の国」という観光地域ブランドのもと、一貫性をもって発信していく狙いがあります。

現在YouTube等で公開中の「諏訪の国（suwanokuni.jp）」のPR映像と併せて、地域内でのブランド活用や気運の醸成を図りながら、地域一体となった観光キャンペーンを展開していく予定です。

藤森さんが紹介する「謎の国、諏訪の国」は諏訪地方観光連盟の「諏訪観光ナビ（suwa-tourism.jp）」にて現在公開中です。

問 産業課 商工観光課 ☎62-9342

